

平成26年度第2回長井市振興審議会 議事録

開催日時：平成26年7月24日（木） 15時00分～17時00分

開催場所：交流センターふらり

出席者：19名（委員13名、事務局6名）

■振興審議会委員 北川忠明会長、加藤弘二委員、勝見裕子委員、横澤泰雄委員、齋藤繁喜委員、横山寛道委員、高橋郁子委員、勝見英一朗委員、齋藤道郎委員、馬場先委員、齋藤真知子委員、鈴木周子委員、平吹登委員
（出席13名、欠席5名）

■事務局 遠藤副市長
企画調整課 谷澤課長、佐々木室長、笹原主査、今野主任、佐藤主任

【次第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議
 - （1）第五次総合計画の進行管理について
 - ①長井市民意向調査について（資料1・2）
 - ②事務事業評価について（資料3）
 - （2）第四次国土利用計画の策定について（資料4・5）
 - （3）その他
- 4 その他
- 5 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 あいさつ

○会長

この度は豪雨の影響で何十年ぶりかの大変な被害があったとのことで、お見舞い申し上げます。

振興審議会は前回の開催から2か月程経つが、この間、安倍内閣で地方創世本部を立ち上げるとい話が出てきている。5月には日本創世会議から、人口減少、少子化によって消滅の可能性がある自治体が出てくるという相当ショッキングな報告があった。それを受けて、これからどのように地域を創世していくかが大事な課題だと思う。私ども大学にいる人間にとっては、特に山形県内の志願者が減少していると痛感している。県内の高校生が県内の大学に進学する率はわずか25%。多くは宮城県や首都圏に進学する。帰ってくればいいのだが、なかなか帰ってこない。それが地方の衰退を招いている。山形県の高等教育課に話を聞いたところ、来年から県内の高校生に対し、県内の大学に進学するように、また県内に就職するように働きかけを行うそうだ。人材を地域で育成し、地域で循環させるという取組みによりやく本腰を入れるようだ。長井市も第五次総合計画がはじまり、持続可能な、みんなが幸せを実感できるまちをつくるためにスタートしているので、皆さまには何卒ご協力をお願いしたい。

3 協 議 [座長＝北川会長]

(1) 第五次総合計画の進行管理について

①長井市民意向調査について(資料1・2)

資料1・資料2に基づき佐々木室長から説明。

○進め方、構成について

(会長)

まず市民意向調査の進め方、構成についてご意見があれば伺いたい。

⇒意見なし

○フェイスシートについて

(会長)

フェイスシートについてはいかがか？

(委員)

基本的にはシンプルの方がいいと思うが、だからと言ってシンプルすぎもよくない。また、アンケートを記入する人にとっては、設問の大まかな目的が分かった方が、それぞれの設問に答えやすいのではないか。

(委員)

前回の調査でフェイスシート13項目の中で、結果に強い傾向が見られた項目があれば、残した方がいいと思うが、属性による傾向が変わらなかった項目については、今回は項目を設けなくてもいいと思う。

(会長)

アンケート調査の目的は資料1のP2に記載がある。基本構想や基本計画の現状について市民の意向を確認するという目的がある。また、フェイスシートの項目は不必要な項目は設けず、シンプルにした方がいいと思われる。

(委員)

アンケート調査は18歳以上か、20歳以上か？資料によって違う。

(事務局)

18歳以上で考えている。

(委員)

フェイスシートは目的に応じて結果を分析するための項目。将来、結果をクロス集計するために必要な項目は何かを考えて設問を設けるべきである。

(会長)

基本的なところは問1～6で抑えられている。それ以外で追加する項目はあるか？職業や勤務地などによって、傾向が変わるということも考えられなくはない。

(委員)

前回の調査で、長井出身者と市外出身者の傾向や、既婚者と未婚者の傾向などの分析は特になかったように思う。これからこういった分析をしたいかによって整理していくしかない。答える人はこれがこういった分析につながるのかを考えて記入すると思うので、そのあたりも考慮して項目設定をすればいいと思う。

(委員)

基本的な項目だけを抑えて、詳細な項目までは不要ではないか。

(委員)

前回のアンケートを初めてみたときに、フェイスシートの13項目は多いと感じたが、アンケートの設問によって、フェイスシートの設問と関連性が出てくるところもあると感じた。例えば、福祉関連の設問については、高齢者がいる家庭か否かによって、回答の傾向が変わってくることも考えられる。そのため、基本的な設問以外にも必要な項目がある可能性があると感じた。

(会長)

年齢や家族構成などは福祉関係の結果に何らかの傾向がみられる可能性があるということだ。基本はこの6つの設問とし、その他付け加える必要があるものについては、付け加えるということにしたいと思う。

○大項目について

(会長)

次に大項目について付け加える内容はるか？

(委員)

これで十分ではないか。付け加える必要はないと思う。

(委員)

実際にこれが送られてきたときのことを考えると、H24に実施したアンケートの方が答えやすいと感じた。特に重点戦略の部分については、市民の理解がそこまで及んでいないと思われる。また、アンケートのボリュームについて、A4の20ページ程度のものとあるが、資料では4ページしか示されていない。事務局案として最後まで作っているものもあるのか。さらに、アンケートの送付先を住民基本台帳から無作為に抽出とあるが、ある程度年齢構成、地区のバランスを考慮して抽出されるのか。

(事務局)

アンケート案として皆様にお示ししたものは、一部であり4ページ分しかないが、全体では15～16ページくらいになると想定している。

(事務局)

送付先については、前回も無作為に抽出したのだが、抽出した結果、年齢構成や地区などはバランスよく抽出された。年齢構成、地区などを考慮せずに抽出しても、ほぼ構成通りの抽出となるため、今回も全くの無作為で抽出して問題ないと考えている。

(委員)

1800人を無作為に抽出することが、真のアンケート結果になるのかが疑問。無作為に抽出するのではなく、まちづくりに関心のある人に対してアンケートを送ることはできないのか。

(会長)

地区毎や団体に説明会を行ったりしているので、そのような機会を設けて関心がある人を対象にすることも可能だと思う。

(委員)

アンケートは無作為の方がいいと思う。意見のある人の意見だけでなく、普段考える機会のない人の意見を聞くことも必要だと思う。また大項目についてだが、資料に大項目の例として挙げられている内容をフリー記載欄で「例えば〇〇〇〇について記載してください。」など示して意見を聞く方法もあると思う。

(会長)

大項目については特に他に追加すべきことはないということによろしいか。

→意見なし

○各施策に対する満足度、重要度調査について

(会長)

では次に各施策に対する満足度、重要度調査についてご意見を伺いたい。施策ごとに満足度、重要度を問うものである。

(委員)

大項目と各施策を関連付けて質問した方が答えやすいのではないか。取組の方針を列挙されても、一方では満足だがもう一方は不満ということもあり得る。

(会長)

設問の問い方、つなげ方の工夫が必要ということだ。

(委員)

全体的に見にくいと感じる。前回の調査の方がくだけていて分かりやすい。読んですぐに理解できるように、羅列ではなく文章にした方がいいのではないか。また施策をすべて挙げる必要があるのか疑問。

(委員)

見にくいし、答えにくいと感じる。前回のように取組方針ひとつひとつを問う形の方が答えやすいと思う。また、重要度はこういった目的で問うのか。すべて重要な取組みだと思う。

(事務局)

今ご指摘のあった箇所は事務局でも悩んでいるところである。取組みをすべて載せているが、これは市民に第五次総合計画で取り組んでいる内容を知ってもらいたいという意味もあってすべて記載した。ただ、答える側にとっては、言葉で質問した方が答えやすいのかもしれない。また、満足度や重要度についてだが、満足度はこれまでの市の取組みについて満足か、不満かを問うものである。重要度は重みづけや優先度を図り、予算配分等を決める際の参考にしたいと考えた。

(委員)

満足度と重要度については、そのような説明をつければ分かりやすい。また、アンケートの答えやすさを求めるとすれば、取組の方針はすべて別表に記載するなどの方法があると思う。

(会長)

参考資料として示すという方法もあるということだ。満足度はこれまでの取組に対して満足かどうかを問うもの、重要度はこれからの施策として大事かどうかを問うものという説明を加えて分かりやすく記載すべき。

(委員)

一つの施策の中にも、これだけたくさんの事務事業があり、これらトータルに対して満足かどうかを問う形になっている。重要度については、ほとんどが事業を起こしているのですべて重要だと思う。事業ごとに大きく分けて満足度を問う形にすれば、後期計画に反映させる際に評価しやすいのではないかと思う。

(会長)

市民に個別の事務事業に対して意見を求めるのは難しいと思う。施策として特徴的な取組を取り上げた方が分かりやすいと思う。

(委員)

アンケートの取り扱いについては前にも発言したことがあるが、どういう取り上げ方をするかがポイントだと思う。予算を組む際の順位付けの参考にするのであれば、十分に説明した上で回答してもらわないと使えない。アンケートを出す側からすれば、十分に勉強した上で回答してもらうことを期待するが、今回のアンケートは無作為に抽出するので、実際に書く人がそこまでやってくれるとは考えられない。だいたい感覚的に○をつけていくだろうと思う。また、アンケートの取り扱いだが、どういう形で書かれるかを踏まえた上でアンケートを取り扱って欲しい。H24に実施したアンケートの際は「こういった傾向でした」という取扱이었다。そういった取扱いであれば、調査をしても構わないと思うが、先ほどの話にあったように重要度に応じて施策を考えるのであれば、ただ単にアンケートを送るのではなくて、例えば調査員がひとりひとりに訪問して、施策を簡単に説明した上で回答してもらうくらい丁寧にしていかなければ、施策に反映するのは難しいのではないかと思う。

(委員)

アンケートの中でひとりひとりに重要度を聞いて、それを予算や施策に活かすというのは違うと思う。満足度だけを問うのであればいいと思うが、その結果を踏まえて重要度や優先順位を決めるのはこちらで行うべきだと思う。

(委員)

前回、家族の元に分厚いアンケートが送られてきた。働いていると、なかなかそのような膨大な量のアンケートに答えるのは難しい。アンケートが送られてきた人は、恐らくそのような感情をもつ人が多いと思う。また中身を見てみても、なかなか答えにくい。年代に応じて、分かる分からないの前に関心のないものもあり、「分からない」に○をつける。そういった場合、本当に分からないのか、関心がないのかが判断できない。だから半分にも満たない回答率になっているのかもしれない。

(事務局)

各委員からごもっともで貴重な意見を出していただきありがたい。前回のアンケートは市民の意向をこれからのまちづくりにどういった傾向で反映させるかというためのアンケートであり、重要度や満足度を図り序列をつけるためのものだった。今回のアンケートは第五次総合計画の施策を並べ、現在の市民の皆さんの意向の変化を問う、随分よくばりなアンケートになっていると思う。ご指摘のとおり、重要度はすべて重要に○をつける傾向にあると思う。重要度

についてはもう少し検討をしたい。例えば、資料２ P 3（１）保健医療分野の「特定健康診査や人間ドック後の保健指導の実施」は力を入れている事業であり、一方で「子育て世代の経済的な負担の軽減」は非常に要望が強い事業である。また「子育て支援医療の給付拡大」は中学生まで無料にできないかという要望も多くいただいている。このように、アンケートの中にいろいろな事業が含まれすぎていて、満足度も重要度も回答しにくいというのが、アンケートが送られてきた方の本音だと思う。また、前回の調査については定点調査をしたいと思い、市民のしあわせ度がどのくらい上がったのかを調査するための調査だった。「しあわせのために必要なことは何か」という設問には「健康であること」が１番高かった。そのため市では健康・福祉に関する施策に力を入れようということでこの第五次総合計画にまとめた。市民にとってのしあわせとは何かということを前回に引き続いて質問項目を作っていきたいと思う。委託先の山形大学の下平先生とも相談しながら再検討させていただきたい。

（会長）

総合計画に対してアンケートを進捗状況調査に活かしていくためには相当な工夫が必要だと思う。アンケートを予算付けなどに反映させていくかも重要な問題だと思うので、もう一度検討いただきたい。

（委員）

第五次総合計画の施策の周知まではアンケートで図らなくていいのではないかな。

（事務局）

時間をいただいて事務局で再検討したい。スケジュールに８月実施と記載しているが、８月の実施は取りやめて、次回の審議会で再度お示ししたあとに実施したい。

②事務事業評価について（資料３）

資料３に基づき笹原主査から説明。

（会長）

ご質問・ご意見はあるか？

⇒なし

（２）第四次国土利用計画の策定について（資料４・５）

資料４・５に基づき今野主任より説明。

（会長）

資料５の「現在の土地利用の課題と今後の方向性」についてご意見を伺いたい。

（委員）

農地についてだが、高齢化により農業従事者が減少傾向にある。中規模の農地を集積することも必要と思われる。酒田市では農地集積促進センターを設置したようだ。長井ではそういった集積センターのようなものを立ち上げる方向にあるのか。

（委員）

H 2 6 度からスタートしたが、中間管理機構という事業で担い手に農地を集積するとして、長井も動いている。農振地域で、ある程度農地を集積できれば、国が整備に関して補助をして

くれるという制度もある。ただし、遊休農地には携わらないということもあり、ますます遊休農地が増えるのではないかという懸念もある。しかし、今後の中間管理機構の事業に関しては期待されており、いい方向に向かっていると思う。

(委員)

宅地についてだが、これから空き家がどんどん増える傾向があると思う。こういったことも課題の中に入ってくるのか。

(会長)

人口が縮小する中で、空き家などを有効活用するという課題があると思う。そのあたりについてはいかがか。

(事務局)

空き家や空き地の対策も非常に大きな課題だと考えている。空き家の適正な管理のための条例整備などは進んでいる。一方で、どうやって有効活用するかという意味で空き家バンクの制度をこれから整えたいと考えている。そういった対応も念頭に置きながら、こちらの計画の中でどう進めていくか検討していきたい。

(委員)

長井市で考えれば、人口減少が進んでいるのは郡部だけであり、中心地はそれほど減ってはいない。しかし、空き家はここ5年で急速に増えているし、これからも増え続けるはずである。高齢者世帯が多く、今後、人口減少と空き家増加が中央地区にも押し寄せてくるのではないかと懸念している。国の施策のコンパクトシティのように、まちの中に人が住める仕組みやまちの中に主要施設をおくということが必要だと思う。地方創世の法案がどう動くか分からないが、何をするにも規制があり、他と同じようなまちづくりになるのではと感じてしまう。ぜひ長井の中心は、他にはないような地域づくりができればいい。他の地域、国では、特徴のある場所が多く、食べるものだけでなくその土地で産出される石や木などを活かしたまちづくりをしているところもある。西山の木や野川の石を使った地域づくりが必要なのではないか。長井小学校の第一校舎を残したり慈愛の森に遊歩道を作ったり、河川敷に都市公園を作るなど整備すれば、新たなまちづくりができるのではと考えている。

(会長)

土地利用計画については、第五次総合計画に連動した形でこれから策定することになると思う。他にお気づきの点はないか。

(委員)

北中学区と南中学区で明らかに人口に偏りがある。子どもたちが喜ぶスポーツ施設をつくるなど、北中学区でもよかったと思えるような、バランスのいいまちづくりをしていただきたい。

(委員)

空き家対策についてだが、西根の縄文の森で「ぼくらの文楽」というイベントがあり、そのイベントに来た人の中には、空き家の整備がされていれば、住みたいという人もいるようだ。傷んでいるところを修繕したり、水洗トイレにしたりなどリフォームをするような市の取組みがあればいいと思う。

(委員)

農地の利用についてだが、環境保全会でU字溝を堀の代わりにいれていると思う。U字溝は草刈をしなくていいというメリットがある。それは便利でいいのだが、生態系が壊れてしまう

ということもある。途中にため池を作って浄化する方法も必要ではないかと思う。

(会長)

農地利用や空き家利用、地域のバランスなどの意見が出た。それらを踏まえて、計画を検討して頂きたい。

(3) その他

なし

4 その他

7月9日～10日に発生した豪雨災害について谷澤課長より報告。

(事務局)

昨日議会があり、最低限の復旧については早急に対応をしていくこととなった。また、大石線は60か所くらいの土砂崩れがあり、予算的にも相当額かかる見込みのため、12月議会での補正予算で対応したいと考えている。また、山際の一人暮らしのお宅に土砂が流れていたということで社会福祉協議会のボランティアセンターで、土砂の排除などにご尽力をいただき大変感謝している。50年に1回の雨と言われているが、50年に2回起きて、新しい形の豪雨であると言われている。県も緊急の対応で県知事も長井にいらっしゃったし、内閣府への要望も行ったところであるので、なるべく早い予算措置がなされることを期待する。市民の皆様の財産の保全と生命の安全の確保に努めたい。

今日いただいた意見は11月の振興審議会までに検討し、皆様にお示ししたい。

(委員)

今回の豪雨は観測史上1位ということだが、意外と被害が少なかったように感じる。長井ダムに保水力があり効果的だったのではないか。昭和38年の被害ではもっと被害が多く、床上まで浸水していたところが多かった。今回はそれほど被害がなかったように思う。これからも豪雨は起こるだろうが、長井は長井ダムのおかげで助かっているのではないかと思う。

(会長)

今日は第五次総合計画の進行管理について大変重要で貴重なご意見をいただいた。次回は11月の予定である。いろいろなご意見、アドバイスをいただきたいと思います。

5 閉 会

以上